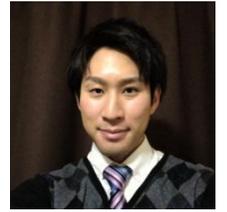


国道252号 田子倉工区の災害復旧工事について



山口土木事務所
業務課 技師 曾根 遼

施工場所：南会津郡只見町大字田子倉地内

1. 概要

平成23年7月27日～30日にかけて新潟県及び福島県で発生した「新潟・福島豪雨」は、福島県会津地方西部を中心に大きな被害をもたらした。

本箇所においても道路崩壊や法面崩壊など甚大な被害を受け、両県に渡りL=27.7km（福島県側L=14.4km）が通行止めとなった。

一日も早い再開通を目指して災害復旧工事を実施し、再開通時期の大幅な短縮に成功。また、災害復旧工事の全箇所完了となったが、平成25年7月「梅雨前線豪雨」により再び本箇所は被害を受けてしまった。

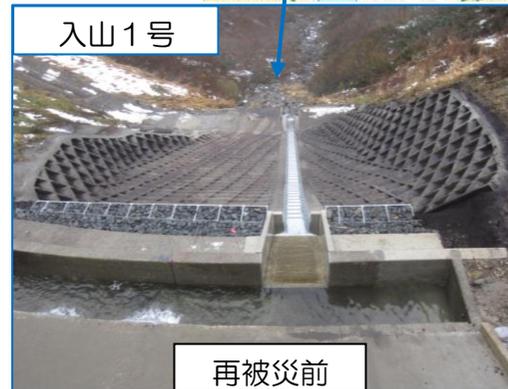
2. 経緯・課題

■経緯

平成23年7月27日～30日	新潟・福島豪雨発生
平成23年7月29日	雨量超過により全面通行止め
平成24年7月23日	全線再開通（3カ月前倒し）
平成25年7月29日～30日	梅雨前線豪雨発生
平成25年7月30日	雨量超過により全面通行止め
平成25年7月31日	通行規制解除（片交により解放）
平成25年10月7日	災害査定実施（第2次災害査定）

■課題（災害査定におけるポイント）

- ・今回被害を受けた箇所は、新潟・福島豪雨で復旧した箇所であったため、**未満災**である。
- ・過年度の**設計・施工の妥当性**の検証。前回と今回の**被災要因・被災メカニズムの相違点**の整理。
- ・前回申請との**二重投資**となるため、査定においては**厳しい視点**が想定された。



再被災前



再被災後

縦排水（コルゲートパイプ）が損壊
吹付枠（フリールーム）が損壊

3. 内 容

≪H25 梅雨前線豪雨≫

【工事費】 93,000 千円

【工事内容】

現場打ち U 型水路工 L=44.2m

吹付砕工 A=331.0m²

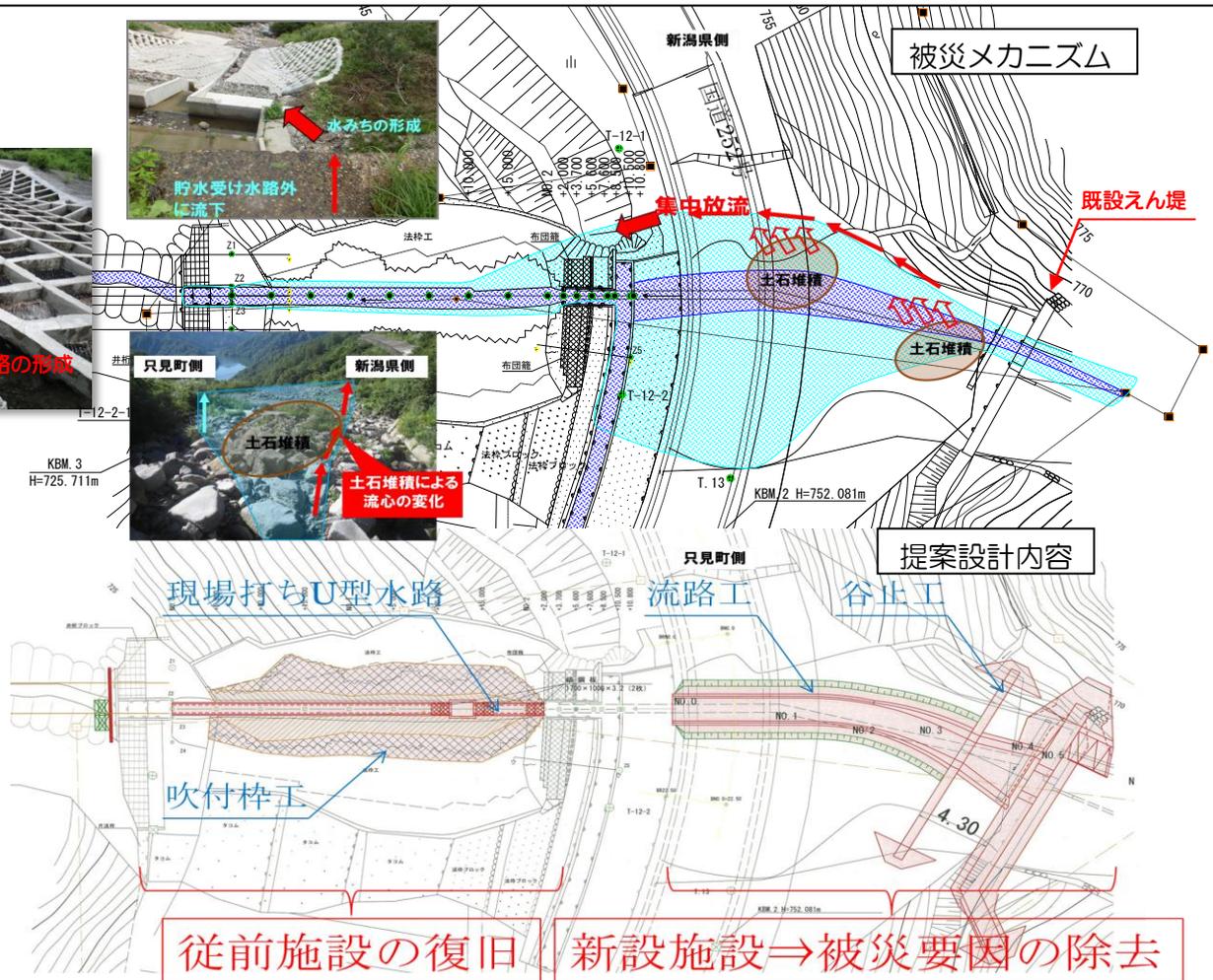
谷止工 N=1 基

流路工 L=32.5m



4. 進捗状況・創意工夫

■ 今回の被災要因、被災メカニズムを精査した結果、沢から発生した土石に対してシュッド上部既設えん堤では完全に捉えきれず、想定を超えた範囲で下部斜面に放流したことが原因であると判明したため、従前施設の復旧に加え、従前の機能・効用を復旧（原形復旧）するために、従前にはない施設（谷止め工・流路工）を新設するという提案を行った。



5. おわりに

■ H23 新潟・福島豪雨、H25 梅雨前線豪雨災害を経験して得たことは以下の3点。

I. 災害復旧事務はスピーディかつ確かな判断をしなければならない。

⇒ 災害が発生してから災害査定までは期間が短く、その間に調査や測量設計、各種検討を行う必要があり、その業務遂行には蓄積した知識と経験をフル活用させ、全ての段階でスピーディかつ確かな判断が求められることとなる。

II. 原形復旧の原則に捉われすぎない。

⇒ 従前施設を原形に復旧するというだけでなく、被害を受けた要因を的確に捉え、被災要因の除去をすることが重要である。
(機能・効用を原形に復旧する視点が必要)

III. 日ごろから危機管理意識を持つことが重要である。

⇒ 災害などのない日ごろから、災害が起きた時どう対応していくのかを考えることが重要である。